

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	-----	------

教科書名	改訂 新編 化学基礎	出版社名	東京書籍
------	------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	3編 物質の変化	1 原子量・分子量・式量		◎	○	授 業 の 概 要 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化に関する内容を学びます。 ・実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則性に気づき、考えを深めることが大切です。
		1章 物質量と化学反応式	2 物質量		◎	○	
			3 溶液の濃度		◎	○	
	5	中間考査(5/19～5/22)	4 化学反応の表し方 ・化学反応式		◎	○	
				◎	◎		
	6		・イオン反応式	◎	○		
			5 化学反応式の表す量的関係		◎	○	
			・化学反応式の表す量的関係	○	◎		
二 学 期	7	2章 酸と塩基	・化学の諸法則	◎		○	学 習 の 到 達 目 標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連づけて考察できる。
			1 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基	○	◎	○	
			・酸と塩基の価数・酸と塩基の強弱	◎		○	
	8	夏季休業日(7/18～8/26)					
	9		2 水素イオン濃度とpH ・水素イオン濃度		◎	○	
			・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定	○	◎		
			3 中和反応と塩の生成	◎			
三 学 期	10	3章 酸化還元反応	4 中和滴定 ・中和反応の量的関係		◎	○	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
			・中和滴定	◎	○	○	
			・滴定曲線	◎			
	11	中間考査(10/6～10/9)	1 酸化と還元 ・酸化と還元	◎			
			・酸化数と酸化還元反応	○	◎		
	12	期末考査(11/26～12/2)	2 酸化剤と還元剤 ・酸化剤と還元剤	◎			
			・電子の授受と酸化還元反応式	◎	○		
冬 季	1		・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ	◎	○		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
			・酸化還元滴定	○	◎		
				◎	◎		
	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	3 金属の酸化還元反応 ・金属のイオン化傾向	◎		○	
			・金属の反応性	◎		○	
	3	冬季休業日(12/19～1/7)					
三 学 期	1		4 酸化還元反応の応用 ・電池の仕組み	◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
			・実用電池	◎		○	
				◎		○	
	2		・金属の精錬	◎		○	
			・電気分解	○	◎		
	3			○	◎		
				◎	◎		
三 学 期	1		・問題演習	◎	○	○	備 考 内容は前期課程の理科よりも高度になります。暗記事項や計算事項も増えてきます。週に2回しか授業がありませんから、復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
				◎	○	○	
				◎	○	○	
	2			◎	○	○	
				◎	○	○	
	3			◎	○	○	
				◎	○	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	地学基礎	学年	4 年	類型	共通	単位 数	2 単位
----	----	----	------	----	-----	----	----	---------	------

教科書名	地学基礎	出版社名	第一学習社
------	------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	第1章 地球の姿	地球の形と大きさ 地球の形と特徴と大きさ		○	◎	授 業 の 概 要 一学期は、地球の構造、火山ができる仕組みや、地震が起こる仕組みについて学びます。 二学期は、大気の運動とその原因となる太陽放射、地球の歴史について学びます。 三学期は、地層の成り立ち、造山運動、太陽と太陽系の成り立ち、宇宙の構造と成り立ちについて学びます。 最後に、自然災害への備えや、災害発生時の行動について考えます。	
		第1節 地球の外観	地球の内部構造 地球内部の動き	○	◎			
		第2節 プレートの運動	プレートの分布と運動	◎		○		
			プレートの境界	○		◎		
	5		地殻の変動と地質構造	◎	○			
			変成作用 大地形の構造	○		◎		
		第2章 地球の活動	地震の発生と分布 地震波の伝わり方	◎	○			
		6	第1節 地震	日本付近で発生する地震		◎		○
	第2節 火山活動			火山の分布 火山の形成とマグマ	○	◎		
			火山の噴火 火山の地形	○	◎			
期末考査(6/26～7/2)			◎	○		学 習 の 到 達 目 標		
7	第3章 大気と海洋	大気の構成と特徴	○		◎	・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。		
		第1節 地球のエネルギー収支	対流圏における水の変化		◎		○	
	8	夏季休業日(7/18～8/26)						
9			第2節 大気と海水の運動	太陽放射と地球放射	○	◎		・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。
				地球を出入りするエネルギー	○		◎	
	エネルギー収支の緯度分布	○		◎		評 価 の 観 点		
	風 大気の大循環	○			◎	知識・技能		
二 学 期			海洋の構造	○	◎		・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解することができる。 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動について考えておくことができる。	
			海洋の大循環	○		○		
			中間考査(10/6～10/9)	エルニーニョ現象とラニーニャ現象	◎	○		
			第4章 宇宙と地球	宇宙の探求 宇宙の始まり	○			◎
	10	第1節 宇宙と太陽の誕生	太陽の誕生	○	◎		思考・判断・表現 地球や地球を取り巻く環境について、課題を見いだし見通しをもって実習などを行い、科学的に考察し表現することができる。	
			太陽の活動	○		◎		
		第2節 太陽系と地球の誕生	太陽系の構造 太陽系の誕生	◎	○			
			太陽系の惑星	◎	○			
	11		生命の惑星・地球	○		◎		
			期末考査(11/26～12/2)		◎	○	主体的に学習に取り組む態度 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与しようとしている。	
第5章 生物の変遷と地球環境		地層の形成 地層の重なりと広がり	○		◎			
		第1節 地層と化石	堆積岩	○		◎		
12	冬季休業日(12/20～1/7)							
		1	第2節 地球と生物の変遷	化石と地質時代	○	◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
				先カンブリア時代	○	◎		
古生代				○	◎			
中生代 新生代	◎			○				
2	第6章 地球の環境	気候変動 地球温暖化による変化	○		◎			
		第1節 地球環境の科学	オゾン層の変化	○		◎		
	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	自然の恩恵 季節の変化	◎	○				
		気象災害	◎	○				
3	第2節 日本の自然環境	地震災害	○		◎	備 考		
		地震による被害の軽減		○	◎			
		火山災害と防災	○		◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅰ (地学分野)	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	----	----	-----------------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	理科学習資料 探究	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会
------	-----------	------	------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	1 四国の自然	・四国の地質 ・火成岩の観察 ・堆積岩の観察 ・変成岩の観察 ・地層の形成 ・岩石薄片の観察	◎		○	授 業 の 概 要 一学期は、四国の地質について学び、四国の成り立ちについて考察します。また四国で発生する地震のメカニズムと想定される災害について学び、今後の防災への備えについて考えます。 二学期は、火山噴火の仕組みと災害、大気の運動の仕組みと気候との関係、四国の気象災害、愛媛に縁のある先人や産業について学びます。 三学期は、今まで学んだことを生かし、問題演習を通して地学分野に関する理解を深めていきます。
				◎	○		
	5	2 地震と災害	・地震発生のメカニズム ・四国沖で発生する地震 ・四国の活断層と地形 ・地震による災害と防災 ・家庭での防災の取組	◎	◎	○	
				◎	○		
				◎	○		
	6	3 火山と災害	・マグマの成分と火山噴火との関係 ・火山災害	◎	○		
				◎	○	◎	
夏 季	8	夏季休業日(7/18～8/26)		◎	○		学 習 の 到 達 目 標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・四国の成り立ちと、現在も起こる地震とその災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・日本で起こる火山災害、気候の仕組みと四国で発生する気象災害について理解し、防災意識を高めることができる。 ・愛媛に縁のある先人や産業について理解できる。 ・人間の生活と自然環境との相互作用を理解し、持続可能な社会を構築するための行動目標を設定することができる。
				◎	○		
	9	4 気象と災害	・日本の気候 ・世界の気候 ・大気の大循環 ・日本付近の気団 ・四国の気象災害 ・気候と海流	◎	○		
				◎	○		
				○	◎		
	10	5 愛媛の先達・産業	・大野作太郎と化石 ・別子鉱山 ・ドロマイト鉱山	○	◎		
				○	◎		
二 学 期	11	6 人間の生活と自然環境	・人間活動と自然との相互作用 ・持続可能な社会	◎	○	◎	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 地球や地球を取り巻く環境について、問題を見いだし見通しをもって観察・実習などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
				◎	○		
	12	問題演習	・問題演習	◎	○		
				◎	○		
	冬 季	冬季休業日(12/19～1/7)		◎	○		
				◎	○		
	三 学 期	1	問題演習	◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。 備 考
				◎	○		
				◎	○		
				◎	○		
		2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	◎	○		
期	3	問題演習	・問題演習	◎	○		
				◎	○		
				◎	○		
				◎	○		
				◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	物理基礎 物理	学年	5 年	類型	理科系	単位 数	2 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	---------	--------	----

教科書名	改訂版 物理基礎 物理	出版社名	数研出版
------	-------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動	1 速度 2 加速度 3 落体の運動	○		◎	授 業 の 概 要 第1編は物理基礎・物理とも力学分野です。主に運動する物体について規則性やエネルギー、またそれらの法則を学びます。 第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそのメカニズムを詳しく学習します。 第3編は波に関する内容です。波動現象の基本的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習します。 物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法則や電気エネルギーについて学びます。 物理基礎の第5編は、身の回りで利用されているエネルギーや、社会で実用化されている技術に関して、物理的側面からその仕組みを学習します。
		第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力	◎	○		
	5	中間考査(5/19～5/22)		◎	○		
		第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	◎	○		
	6	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	1 熱と物質の状態 2 熱と仕事	○	◎	○	
		期末考査(6/26～7/2)		◎	○		
	7	第3編 波 第1章 波の性質	1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方	○		◎	
夏 季	8	夏季休業日(7/18～8/26)					学 習 の 到 達 目 標 ・物理的な事象・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事象・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。
二 学 期	9	第2章 音	1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	◎		○	評 価 の 観 点 知識・技能
		第4編 電気 第1章 物質と電気	1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー	◎	○		
	10	第2章 磁場と交流	1 電流と磁場 2 交流と電磁波	○		◎	思考・判断・表現 物体の運動と様々なエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。
		第5編 物理学と社会	1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	◎		
	11	第1章 エネルギーとその利用		◎	○		主体的に学習に取り組む態度 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		中間考査(10/6～10/9)		○	◎		
	12	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動	1 平面運動の速度・加速度 2 落体の運動	◎	○		備 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
		第2章 剛体	1 剛体に働く力のつりあい 2 剛体にはたらく力の合力と重心	○		○	
	1	第3章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	○	◎		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		第4章 円運動と万有引力	1 等速円運動 2 慣性力	◎	○	◎	
	2	期末考査(11/26～12/2)		◎	○		備 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
			3 単振動 4 万有引力	◎	○		
冬 季		冬季休業日(12/19～1/7)					
三 学 期	1	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	○		◎	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
		第3編 波 第1章 波の伝わり方	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 3 波の伝わり方	○		◎	
	2	第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果	◎		○	
		学年末考査4・5年(2/22～2/28)		◎	○		
	3	第3章 光	1 光の性質 2 レンズと鏡 3 光の干渉と回折	○	◎		備 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日一問の問題演習を継続することが大切です。
				○	◎		
				◎			

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学	学年	5 年	類型	理科系	単位数	3 単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	化学Vol.1理論編・化学Vol.2物質編	出版社名	東京書籍
------	-----------------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	化学基礎の復習	有効数字の計算	○	◎		授 業 の 概 要 第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。主に気体・液体・固体の性質や構造について学びます。 第2編は化学反応とエネルギーに関する内容です。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気分解のしくみを学習します。 第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容です。反応速度の理論や可逆反応における平衡移動およびその法則などを学習します。 化学の第4編と第5編以降は、主に6年生で学習します。	
		1編 物質の状態 1章 物質の状態	1 物質の三態	◎	○			
		2章 気体の性質	2 気体・液体間の状態変化		◎			
	5	中間考査(5/19～5/22)	1 気体	◎		○		
				◎		○		
			2 気体の状態方程式	◎	◎			
	6	3章 溶液の性質	1 溶解	○	◎			
			2 気薄溶液の性質 3 コロイド		◎	○		
				◎	○			学 習 の 到 達 目 標
	二 学 期	7	4章 固体の構造	1 結晶	◎	◎		
2 金属結晶の構造				◎		○		
8			夏季休業日(7/18～8/26)		◎	○		
		9	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	3 イオン結晶の構造 4 分子結晶と共有結合の結晶	◎	○		
1 反応とエンタルピー変化				◎	○			
2 ヘスの法則			○	◎				
10		中間考査(10/6～10/9)	3 光とエネルギー	○	◎			
				◎		○		
		2章 電池と電気分解	1 電池	◎	◎			
三 学 期	11	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ	2 電気分解	◎	○		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	
			1 反応の速さ	◎		○		
		2 反応速度を変える条件	○	◎				
	12	期末考査(11/26～12/2)	3 反応の仕組み	○	◎			思考 ・ 判断 ・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
				◎		○		
		2章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡	◎	◎			
	2 平行移動	◎		○				
冬季休業日(12/19～1/7)		○	◎					
三 学 期	1		1 電離平衡	◎	◎		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			2 塩の水への溶解	◎	◎			
		2	4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	1 周期表と元素 1 水素とその化合物 2 貴ガス	◎	○		
	3 酸素とその化合物 4 ハロゲンとその化合物 5 硫黄とその化合物 実験 ハロゲンの性質			○	○	◎		
	3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	◎	◎		備 考
三 学 期	3		6 窒素・リンとその化合物 7 炭素・ケイ素とその化合物	◎		○		
			3章 典型元素の単体と化合物	1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物	○	○		◎
			3 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	◎		○		

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科書名	物理	出版社名	数研出版
------	----	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	第2章 音の伝わり方	1 音の伝わり方	◎		○	授 業 の 概 要 第4編は電磁気分野です。オームの法則や電気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と磁気の関連性について学習を深めていきます。 第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。	
		第3章 光	2 音のドップラー効果	◎		○		
			1 光の性質	○	◎			
	5	中間考査(5/19～5/22)	2 レンズと鏡	○	◎			
			3 光の干渉と回折	◎				
				◎	○			
	6	4編 電気と磁気	1 静電気力 2 電場 3 電位			○		◎
		1章 電場	4 物質と電場 5 コンデンサー	◎	○			
		2章 電流	1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体	◎	○			
		3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流の作る磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	◎				
7	期末考査(6/26～7/2)		◎	○		学 習 の 到 達 目 標 ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本的な物理現象について解析することができる。		
	4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則	◎	○				
		2 自己誘導と相互誘導	○		◎			
8	夏季休業日(7/18～8/26)							
二 学 期	9	5編 原子	3 交流の発生	◎	○			
			4 交流回路	◎	○			
			5 電磁波	○			◎	
			1 電子	○	○			
	10	1章 電子と光	2 光の粒子性 3 X線	○	○			
			4 粒子の波動性	◎		○		
	11	中間考査(10/6～10/9)	2章 原子と原子核	◎	○			
			1 原子の構造とエネルギー準位	○	○			
			2 原子核	○	○			
			3 放射線とその性質	○				
12	4 核反応と核エネルギー	4 核反応と核エネルギー	◎	○				
		5 素粒子	○		◎			
			○	◎				
			◎	○				
冬季	期末考査(11/26～12/2)		◎	○		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするともに、科学的態度を身に付けている。		
	問題演習	問題演習	◎	○				
			◎	○				
三 学 期	1	問題演習	冬季休業日(12/19～1/7)					
	2	家庭学習		◎	○			
			◎	○				
			◎	○				
3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)		◎	○				
			◎	○				
			◎	○		備 考		
			◎	○				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	化学	学年	6 年	類型	理科系	単位 数	3 単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	---------	------

教科書名	化学 vol.2 物質編	出版社名	東京書籍
------	--------------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	4編 無機物質 1章 周期表と元素	1 周期表と元素	○	○	◎	授 業 の 概 要 化学では、前年度から引き続いた内容を学習します。 4編「無機物質」では、非金属元素や金属元素について、単体・化合物の性質を学びます。 5編「有機化合物」の分野では、有機化合物について、基本的な構造、官能基による性質の違いなどについて、実験・観察などを通して学びます。 6編「高分子化合物」の分野では、日常生活と関連付けながら、高分子化合物の反応性や性質・特徴について学びます。 学 習 の 到 達 目 標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身に付ける。 ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用いて基本的な化学現象について探究し、日常生活や社会と関連付けて考察できる。
		2章 非金属元素の単体と化合物	1 水素とその化合物 2 貴ガス 3 酸素とその化合物 4 ハロゲンとその化合物 5 硫黄とその化合物 実験 ハロゲンの性質 6 窒素・リンとその化合物 7 炭素・ケイ素とその化合物	○	○	◎	
		中間考査(5/19～5/22)			◎	○	
		3章 典型元素の単体と化合物	1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物 3 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	○	○	◎	
	6	4章 遷移元素の単体と化合物	1 遷移元素の特徴 2 遷移元素とその化合物	◎		○	
		5章 金属イオンの分離と確認	1 金属イオンが検出できる反応 2 金属イオンの系統分離と確認 実験 陽イオンの反応	○	○	◎	
		期末考査(6/26～7/2)		◎	○		
	7	5編 有機化合物	1 有機化合物の特徴 2 有機化合物の構造式の決定	◎	○		
		1章 有機化合物の特徴と構造		○	○	◎	
	8	夏季休業日(7/18～8/26)		◎		○	
二 学 期	9	2章 炭化水素	1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素	○	○	◎	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果から自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。観察・実験の結果を実験ノートやレポートに的確に記録、整理している。 主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
		3章 アルコールと関連化合物	1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 実験 アルコールとアルデヒド 4 エステル・油脂・セッケン	○	○	◎	
		中間考査(10/6～10/9)		◎		○	
		4章 芳香族化合物	1 芳香族炭化水素 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 実験 サリチル酸のエステル 3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 芳香族化合物の分離	◎		○	
	11	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か	1 高分子化合物の分類と特徴	○	○	◎	
		2章 天然高分子化合物	1 単糖類と二糖類 2 多糖類 3 アミノ酸 4 タンパク質 実験 アミノ酸およびタンパク質の性質	○	○	◎	
		期末考査(11/26～12/2)		◎	○		
	12	3章 合成高分子化合物	1 合成繊維 2 合成樹脂 3 ゴム	○	○	◎	
		冬季休業日(12/19～1/7)		◎		○	
	1		問題演習	◎	○		評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 備 考
三 学 期	2		家庭学習	◎	○		
				◎	○		
				◎	○		
	3			◎	○		
				◎	○		
				◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科Ⅱ (化学分野)	学年	6 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	----	----	-----------------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	化学基礎・化学実験ノート	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門
------	--------------	------	----------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	Ⅰ 物質の構成	1 物質の成分と構成元素	○	○	◎	授 業 の 概 要 基本的には、化学基礎の内容を復習していきます。また、4・5年次にできなかった実験も行い、化学現象の理解を深めていきます。2学期の後半からは総合問題で、大学入学共通テストにも対応できる力を養っていきます。	
			2 原子の構成と元素の周期表	○	○	◎		
			3 化学結合	○	○	◎		
			4 化学結合と結晶	○	○	◎		
	5	中間考査(5/19～5/22)		◎	◎	○		
			Ⅱ 物質の変化	1 物質量と濃度	○	○		◎
	6			2 化学反応と化学反応式	◎	○		◎
				◎		○		
夏 季	7	期末考査(6/26～7/2)		◎	○	学 習 の 到 達 目 標 ・自然における化学の基本的な概念や原理・法則を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物や、複雑な事象の奥にある原理や法則を説明する能力を養う。 ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を育成できる。		
				◎	○			
	8		3 酸と塩基・水素イオン濃度 実験 中和滴定	○	○		◎	
					◎		○	
二 学 期	9		4 中和と塩	○	○		◎	評 価 の 観 点 知 識 ・ 技 能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果から自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
			5 酸化還元反応 実験 酸化と還元	○	○		◎	
			6 電池と電気分解		◎		○	
				○	○		◎	
	10	中間考査(10/6～10/9)		◎	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。観察・実験の結果を実験ノートやレポートに的確に記録、整理している。		
			7 物質の変化と熱	○	○		◎	
	11	総合問題		問題演習	◎			
				◎	○			
冬 季	12	期末考査(11/26～12/2)		◎	○		主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
				◎	○			
	1	冬季休業日(12/19～1/7)		◎	○			
三 学 期	1	家庭学習		◎	○	評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
				◎	○			
	2			◎	○			
				◎	○			
	3			◎	○			
				◎	○			
備 考								

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理 科	科目	探究理科Ⅱ (地学分野)	学年	6 年	類型	文科系	単位 数	2	単位
----	-----	----	-----------------	----	-----	----	-----	---------	---	----

教科書名	地 学 学 習 帳	出版社名	愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門
------	-----------	------	----------------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等			
		単 元	内 容	知	思	主				
一 学 期	4	第2章 活動する地球	1 地球を測る	○	○	◎	授 業 の 概 要 一学期は、地球表層で起こる地震や火山などの現象について理解を深めます。 二学期は、地球の歴史、大気と海洋の相互作用、宇宙の成り立ちについて理解を深めます。また、問題演習によって基礎・基本事項の定着を図ります。 三学期は、問題演習を通して地学分野に関する理解を完成させていきます。			
			2 地球内部の構造	○	◎					
			3 プレートテクトニクス	◎	○					
			4 火山の分布	○		○				
			5 マグマの発生	○	○					
			6 火成岩の形成	◎	○					
			7 造岩鉱物	◎	○					
			8 地震が発生する仕組み	○	◎	○				
			9 日本周辺の地震の分布と種類	○	◎	○				
			10 活断層を探る	◎	○					
	5	中間考査(5/19～5/22)		○	◎		学 習 の 到 達 目 標			
二 学 期	6	期末考査(6/26～7/2)		◎	○	・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 ・地学分野の基礎・基本事項が身に付く。 ・地球や宇宙で起こる自然現象について、自分なりの表現で説明できるようになる。				
				◎	○					
	7	第3章 移り変わる地球	1 地表の変化と地層の形成	○	○					
			2 堆積岩	○	○		◎			
	8	夏季休業日(7/18～8/26)								
	9	第4章 大気と海洋	3 地殻変動と変成作用	○				評 価 の 観 点		
			4 化石と地質時代	○			○		知識 ・ 技能	
			1 大気の大循環	◎	○					自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
			2 地球の熱平衡	◎	○					
	3 大気と海洋の相互作用		○	◎	○		思考 ・ 判断 ・ 表現			
	4 自然災害		○	◎	○			自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。観察・実験の結果や考察を学習帳に的確に記録・整理している。		
10	中間考査(10/6～10/9)		◎	○						
	問題演習	◎	○							
11	第1章 宇宙の姿	1 太陽系	◎		○	主体的に学習に取り組む態度				
		2 太陽の活動	◎		○		自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。			
		3 恒星の誕生と進化	◎		○					
		4 銀河と宇宙の広がり	◎		○					
12		問題演習	問題演習	◎	○					
				◎	○					
三 学 期	1	問題演習	問題演習	◎	○	評 価 方 法				
				◎	○		学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			
	2	家庭学習		◎	○	備 考				
				◎	○					
	3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)		◎	○					
				◎	○					